

## 第三者意見・審査報告

信頼性を高めるとともに、社会の期待に応えるレポートとするため、第三者意見・審査をいただきました。

### 第三者意見



#### 水尾 順一 氏

駿河台大学名誉教授・博士（経営学）  
一般社団法人日本コンプライアンス&ガバナンス研究所代表理事 / 会長

（株）資生堂から、駿河台大学教授・経済研究所長等を経て2018年3月末退職、現在に至る。（株）ダイセル社外監査役。2010年ロンドン大学客員研究員他。著書『サステナブル・カンパニー〜「ずーっと」栄える会社の事業構想』（株）宣伝会議など多数

オカムラグループ（以下、同社）のサステナビリティレポート2020について、企業でCSRの実務を推進し、大学でその理論構築をして「CSRの理論と実践の融合」を社会に促進してきた立場から、以下に第三者意見を申し述べます。

#### ● 高く評価できる点：

##### 共創活動「WORK MILL」による「働き方改革の理論と実践」が理解できます。

同社が2016年11月から進めている共創活動「WORK MILL」は、東京・名古屋・大阪・福岡に共創空間を設け、各地域における働く人々とのネットワーク形成やコミュニケーションのあり方など、働き方改革に関する理論と実践の「場」を提供しています。

昨年のレポートで「全社挙げての広報によってショールーム等への参加を呼びかけ」を提案申し上げましたが、特集1を通して積極的に取り組んでいる様子が開示されています。

各共創空間はオンラインセミナーなどによって生き方、働き方、社会課題への対応など様々な情報を発信し、社会と会社、社員の三者連携を通じた働き方改革とその啓発に多大な貢献を果たしています。このように、WORK MILLの活動はコロナ禍の現況下において、本業を通じて社会に貢献できる同社ならではのCSVと評価することができ、CSRとSDGs実践の新しい価値創造モデルの先進的事例といえます。

##### 「カエル！活動」の共有と共感による改善活動が理解できます。

働き方に関する「カエル！活動」が、現場の旗振り役に情報共有され、彼らをまきこんだボトムアップの取り組みに生かされていることが特集2によって理解できます。このような仲間たちと一体になった活動は、個人の倫理観や心情というメンタルな側面に働きかけ、現場の理解と納得による「共感」を得ることで、CSRやSDGsの活動にドライブがかかります。

この共感とは、お互いに相手の感情を共有し、感情移入を通じて喜怒哀楽を分かち合い認め合うことで生まれる相互認知の感情で、他の動物にはない、社会的に存在意義のある人間の価値なのです。

「共感」の思想については、『国富論』の著者で有名な英国の経済学者アダム・スミスが、別の著書『道徳感情論』の中で「Sympathy（シンパシー：共感）」という表現で、国家（組織）の繁栄には共感の思想が大切と語っています。「カエル！活動」の旗振り役は、社内における仲間たちの相談員としての機能や、CSRとSDGsの浸透・定着の先導役としての機能もあわせ持つ組織だからこそ、「共感」を得ることも可能になるのです。

#### ● 今後に期待する点：

サステナビリティレポート2020では、昨年まとめた同社のサステナビリティ重点課題の4分野に、新たに各KPIを設定、従業員に明示することで全社的な共通目標としてベクトルを合わせて取り組んでいます。今後、サステナビリティ行動計画への取り組みを一層進めていくには、このKPIの設定に加えて、その評価をどのように「見える化」するかが重要な課題になると考えます（たとえば、コロナ禍において大阪方式として有名になった通天閣の色彩訴求などは、「見える化」の好事例です）。

上記4つの分野（大項目）ごとに、また分野内での各3項目（中項目）について、単純に5段階表示、あるいは視覚的に天気マークや顔表情（笑顔～泣き顔）などによってわかりやすく評価し、より一歩進んだ「見える化」ができれば、サステナビリティ行動計画に対する社内の理解力と求心力はさらなる向上が期待できます。

同社のサステナビリティ行動計画が、SDGsへの貢献、さらにはESG評価の高まり、最終的には企業価値の向上に結びつけられることを心から祈念申し上げます。

### 第三者意見を受けて

「サステナビリティレポート2020」の発行にあたって、多くの分野のステークホルダーの皆様より貴重なご意見を多数いただき、それらのご意見を参考にし、持続可能な社会の構築に向けた、当社グループの取り組みを報告させていただきました。

水尾先生には、ご専門のお立場から忌憚のないご意見を頂戴し、お礼を申し上げます。当社の取り組みの進展に対して評価いただくとともに、サステナビリティ重点課題の4分野における今年度設定したKPIの評価を、どのように「見える化」するかが重要な課題とご指摘いただきました。

この内容は、サステナビリティを軸にした経営をさらに前進させるための重要なお意見と認識し、取り組みへの反映に努めてまいります。

今後も、「豊かな発想と確かな品質で、人が集う環境づくりを通して、社会に貢献する。」をミッションとして、2020年度が初年度である中期経営計画を推進すると共に、様々な社会課題の解決に向け、本業を通じて着実に、持続可能な社会の実現に貢献していきたくと考えております。

執行役員 佐藤 喜一

## 第三者審査報告

### 環境パフォーマンスデータ 第三者レビュー報告



BUREAU  
VERITAS

2020年6月1日

株式会社 オカムラ 御中

ビューローベリタスジャパン株式会社  
システム認証事業本部



ビューローベリタスジャパン株式会社(以下、BV という)は、株式会社オカムラ(以下、オカムラという)の責任において作成されたオカムラグループ CSR Report2020に記載される、2019年度環境パフォーマンスデータのうちオカムラの指定した項目のレビューを実施した。BV の責任は、環境パフォーマンスデータについて独立の立場からレビューし、その結果を報告することであり、検証を目的とするものではない。

#### レビューの概要

BV は、オカムラとの合意に基づき、以下のレビューを実施した。

オカムラ本社・環境マネジメント部において

- ・ オカムラ EMS 全社事務局における環境パフォーマンスデータに関するマネジメントシステムの信頼性
- ・ CSR Report に記載された情報の適切性

中井工場において

- ・ 2019年4月から2020年3月にかけてオカムラ EMS 全社事務局に対して報告された環境パフォーマンスデータ
- ・ 中井工場における環境パフォーマンスデータに関するマネジメントシステムの信頼性

#### レビュー項目

- ・ 総エネルギー投入量、エネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量
- ・ 廃棄物排出量と再資源化量、最終処分量
- ・ 水資源投入量、総排水量、BOD/COD 排出量
- ・ PRTR 対象物質取扱量・排出量・移動量
- ・ NO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub>排出量

#### レビューの結果

1. グループ内の各サイトからオカムラ EMS 全社事務局へ報告されたデータに、いくつかの軽微な誤りが発見されたが全て修正された。
2. オカムラグループ CSR Report2020 に記載された環境パフォーマンスデータと、オカムラ EMS 全社事務局が収集したデータとの間に、矛盾する内容は認められなかった。

以上